

日本学術会議

若手アカデミー会議(第 26 期・第 4 回)

議事要旨

1. 日時：令和 7 年 3 月 14 日（金） 13：30～15：30

2. 会場：日本学術会議 6-C（1，2）会議室 及び オンライン

3. 出席者：(敬称略)

現地：小野(代表)、標葉(副代表)、南澤(幹事)、大西、小川、川口、坂井、杉本、田井、武田(秀)、
門田、山内、

オンライン：緒形、加納、木村、久保、癸生川、坂元、櫻田、實藤、清水、田川、寺田、藤井、堀、
安田、松本、松山

オブザーバー：三枝副会長、若尾（事務局）

4. 議事

（1）三枝副会長挨拶

（2）公開イベント実施報告

2024 年 10 月 25-27 日 栃木県那須郡那須町／オンライン

公開シンポジウム「地域課題解決に挑む実践型アカデミー創設に向けてー那須地域から始まる未来実装学アカデミー」開催。これを契機に那須塩原市との共創プラットフォーム実証モデル構築に向けた議論を開始。12 月 16 日に市長らとキックオフ会議、2025 年 3 月 4 日にフォローアップを実施。

2025 年 1 月 24 日 岡山大学／オンライン

シンポジウム「多様な人財が拓く学術の未来に関するシンポジウム：研究とコアファシリティのマネジメント人財の役割」開催。

2025 年 2 月 3 日 日本学術会議講堂／オンライン

国際会議「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2024」を開催（25 か国・約 570 名参加、政務官来賓挨拶あり）。

2025 年 3 月 12 日 TOKYO INNOVATION BASE／オンライン

「Industry-Up Day Spring 2025」にてセッションを企画。学術と共創プラットフォームの役割を議論。

(3) 見解「学術とスタートアップの両輪での推進に向けて（仮称）」について

イノベ分科会を中心に骨子を策定。分科会 3 回、ヒアリング 1 回を実施。令和 7 年 12 月末の発出を目途に準備を進める。

(4) 見解「2040 年の科学・学術と社会を見据えていま取り組むべき課題－フォローアップ（仮称）」について

これまでのシンポ・国際会議・学術誌記事・アンケート等を踏まえ、引き続き検討。

(5) NHK との共同アンケートについて

2025 年 2 月 5 日～28 日実施。研究者等対象の Web 調査。日本語・英語対応、計 5,908 件の回答を得た。

(6) 分科会の活動報告と予定

学術の未来を担う人材育成分科会：岡山大学でシンポジウム開催、文科省と意見交換。今後、分野別課題のマッピングを予定。

ワーク・ライフ・バランス分科会：持続会議にて託児所を設置・視察。

国際分科会：国際会議企画、STS フォーラム・アジア学術会議に派遣。

若手主導の異分野融合研究の推進に関する分科会：ランチミーティング開催、好事例共有。今後は WG 設置へ。

地域社会とアカデミアの連携に関する分科会：地域実践と課題の報告を実施。

未来を拓く学術イノベーション分科会：見解骨子策定、今後ヒアリング・執筆・シンポ企画へ。

情報発信分科会：HP 更新。今後 NHK 連携イベントやサイエンスカフェを企画。

(7) その他

「10 の課題」英語版を公開。

国際交流：米 DOE 前次官、駐日 EU 代表団と意見交換。

運営体制：岩崎幹事の交代を承認、新幹事に門田委員を選出。

次回（第 5 回）全体会議は 2025 年 9 月頃、新潟大学でシンポジウムと併催を検討。

以上